

河内名水記卷三

上太子山上太子山石井郡

用内天皇山用内天皇山日分

妙見寺妙見寺日分

敏達天皇山敏達天皇山日分

多宝寺多宝寺日分

山回方山回方日分

推古天皇山推古天皇山日分

山田山山田山日分

孝法天皇山孝法天皇山日分

安福寺安福寺安福郡

片山片山日分

原山原山日分

平村平村日分

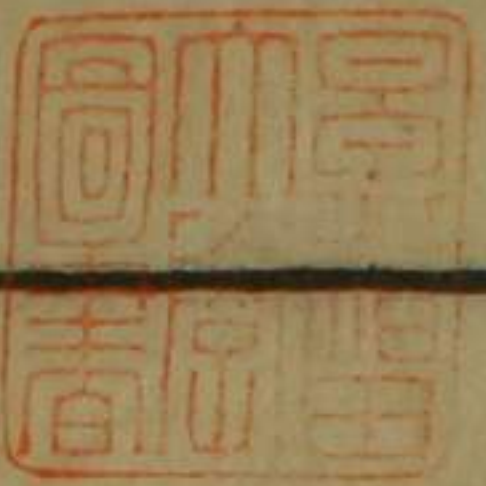
回馬回馬日分

玉分玉分日分

鹿瀬河鹿瀬河日分

青谷青谷大津郡

石井山石井山日分



岩屋いわや 日か

金剛砂こんごうさ 日か

九乃中くのちゆう 日か

鷹之南たかのみ 日か

大黒おほくろ 古市郡

壺井はなゐ 日か

飛鳥あすか 日か

約長やくちやう 日か

赤明あかみ 赤尾郡

玉手山たまてやま 日か

安堂やすどう 八木郡

大平寺おほひらでら 日か

厚敷あつしき 日か

大徳おほとく 日か

清寧せいねい 日か

平野ひらの 日か

山井やまゐ 日か

橋渡はしわた 日か

八尾木やへぎ 日か

上の太子

料長山りやうちやうさん 叡福寺えいふくでら 墓山むらみ 太子たいし 此母こぼ と太子たいし と御み

三尊さんそん 一廟いちぼう たりけとありと此廟こぼ 一ひと 子こ ありと推おし

六月むつき 九月くがつ 天子てんし 甲斐かい 乃の くる約やく 一ひと 今いま 人ひと 洞どう 使し 九く 真ま

一ひと のひとくぞ申まを 小入せうに 富士ふじ 山やま 一ひと のありひ来きた 世よ 乃の 此こ 生なま とと

此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

破やぶ 乃の 山やま 也なり 誠まこと 乃の 七しち 佛ぶつ 此こ 乃の 大だい 乘じやう 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

三さん 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の 此こ 乃の

河内かみ

入のひあんとされりしとあくと宣ひくるともや和別法隆寺
 一 御母乃旧裙と官人小うせまう御におああか
 以被れあぐると旧扇乃口ふさう物さあふさあり則け本生
 つさあ紫とむとび今うらうらうとさうえとが守大衆
 来とせとまは衣文と下れうに太子とを法とて
 くまさあふと同一く一ふとおさあうくゆつる旧墓の也
 考灯あり御墓れ向りて名佛四百九十許立は御親の梵子
 有弘法乃旧巻也くるとを九よ海公堂の旧陀弘法乃作若尼太
 子世又威乃旧親也くると小代れ帝の旧位牌も太子十六条れ被
 此親堂も必意論親も書もふ伏れ普のを云ひ公も弘法れ
 の関伽井も科長神社九社を此乃汗小并也天を親約れ石塔あり

寶物

- 一 太子繪取起三忠と西門池被抄取の象意の上空今以巻
- 外巻ハ 寛文法皇極御筆
- 一 同繪傳七幅土佐約監筆
- 一 太子二条乃御自筆此親
- 一 太子十六条乃親此長太子香花乃三礼被取親御此奉記
- 一 阿弥陀此長鳥ノ作
- 一 欽明天皇御安置佛舍利
- 一 如意輪親太子御自筆
- 一 用的天皇御自筆親意經
- 一 太子二威御佛此親御
- 一 推古天皇御自筆法花御安奉物品
- 一 弘法大律師筆
- 一 善光寺御自筆之圖字檀金御天守
- 一 朕立親意
- 一 推古天皇御安置之仏舎利
- 一 名月宝珠

一 八祖相傳之佛舍利曰菴者 一太子未本記之刻版主碼礎石アリ
一 塔再真乃阿古心柱の石をこの下より佛舍利十二粒出 金蓮花中ニ
一 山路後草新敵一太子も麗菴一牛玉一馬角も亦明之 細テチリケ生ク

花山院入乃并本天

消みしきしや針金も山先への山雲の川流あつて

ね奇 法橋奇也

二夜と夜更えり六地より天ふさむ妙ていふいり上げたまふ

日 青翔

仰母とたまひまはれしうやうふさむ人もかたやとね

日 弘重

彩りもむらもやらんあつ海と御たまはれ法の光りぬれそ燈

ね奇 津久

すくもまきつにぬえなく海勝るる三骨網まら山墓山一か

日 政弘

御たまはれ進者なりんかやれ暑はのむくくひとちんか

日 栄貞

短尺乃重なるは又字は暑あつとれも乃とのたまあむ

芥と所もく花とく白んはう山 可清

常乃津やふさぐんかんとしうま 一心

雪や福もらん秋也幸危伝れぬまの炭 黒水

宮と母と花とやと川乃山くま 忠低

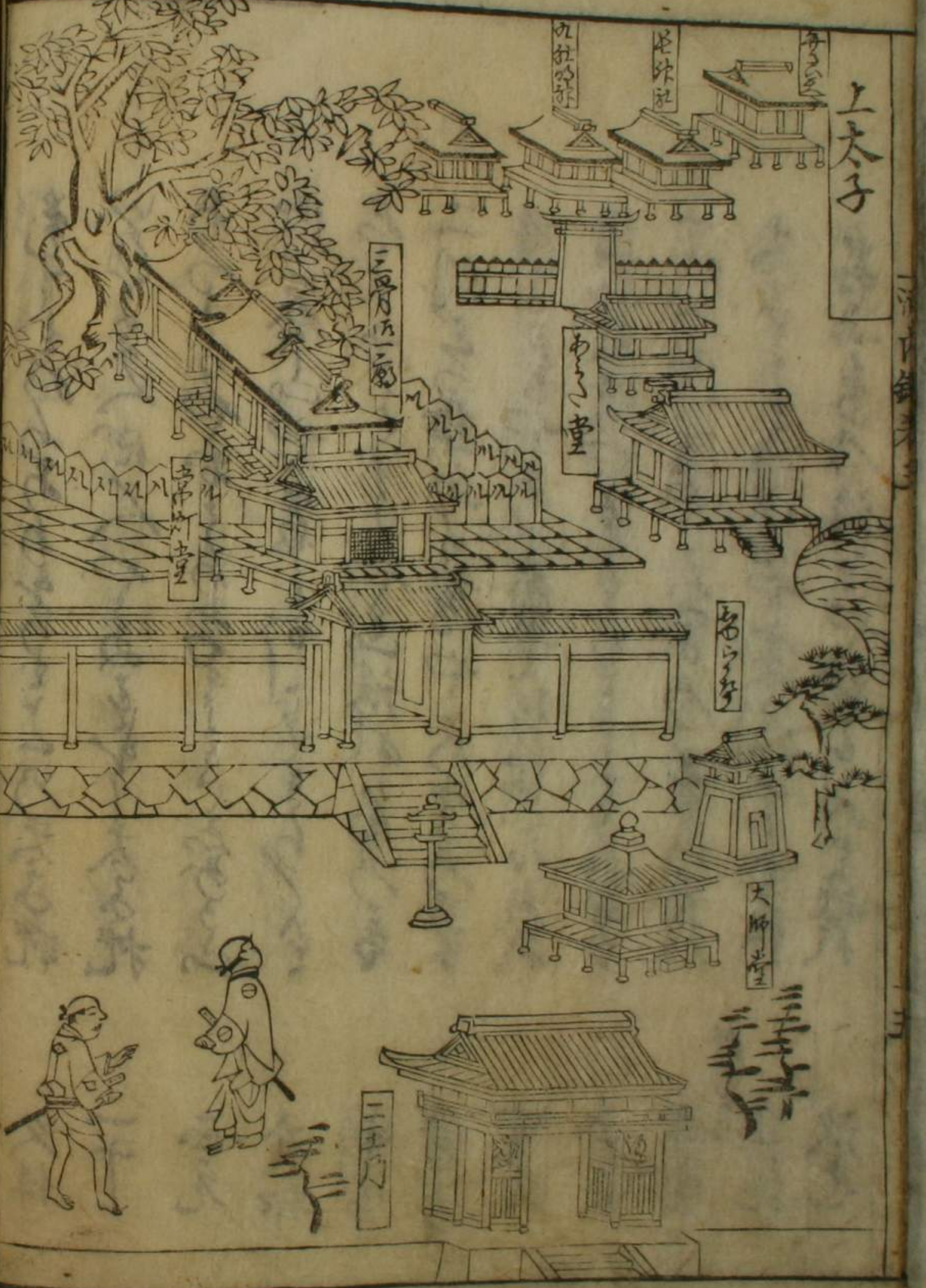
花けん名おまきしつりし科長山 何列山 忠之

花ふやうき極満一月かみ敷福の
樂あり也當乃年也此の福寺
面に花さかりやむくく大衆未
変とされとゆふと太子花をふ
花んを心人も佛性用ふ
みありもろ太子や法のもかた
と下れ太子乃親や月の中か
法乃花もひもとけの教又所の衆
南無のをもくも當もや又字の衆
みらもや仁儀礼知信又字の衆
別初教直委たもおろくも衆を今

如元
梵道
慈水
立心
一利
正音
如貞
定親
正寛
徳法
如元

是すもわらありきもよと乃太子枕
いひよう人心人も又もや太子枕
あつまるやわらわらもよもあつまる
御慕ふもや又もかこしきりも
あつまるもくもろや山花れ菊乃香
二門とつ越わらもや又字の衆
月よももやあつ南無阿彌陀佛
月小教珠やわらわらもよもあつ
一代の御法や又字の衆乃月
太子もくもろもや又憲法十七
衆ももろの法もや又ももも

久伴
二十
正元
友和
利常
常有
可清
正音
空玄
河内之田
重継
次也



西法院

西法院

南

月名目まじり種

大目寺



二王門しゅう向南くわうの山やま橋はし渡り天目堂てんもくどうををくくりりとと西法院さいほういんののふふりりのの太たい子しののああららのの月つき益えき姫ひめ日ひ益えき姫ひめ玉たま照てい姫ひめとと分ぶんちちかかららののひひととののゆゆめめののととろろのの塚づか石いし塔たつあり

国くにををやや月つきままにに日ひゆゆとと花はなれれまま
 くくままかかををかかししよよれれ夕ゆふ日ひままにに遊あそぶぶしし
 塚づかふふくくくくよよののああららのの玉たまととののひひめめ根ね
 舞ま舞ま毎まい月つきままににああららののむむららのの花はな
 切きやややや月つきもも玉たまととののひひめめれれ塚づか
 十じゅう八はち軒けんのの池いけ月つきゆゆととのの乃の鏡かがみううか

光ひかり若わか者もの
 弘ひろ重しげ
 可か清きよ
 一いち十じゅう
 重しげ扇あふ
 竹たけ外ぐわい田でん
 正せい勝しょう

○周知天皇の御宇に於て山後と云ふは月村に在太子の御廟

○妙見寺觀音堂十一面觀音三十三弁觀音堂六六丁辰巳に在

い川乃は小川なりとん和別と名目麿と高木喜月麿とあり方

はうりめ初合いといふは麿合若といひは合若といふは合若

は合若といふは合若といふは合若といふは合若

法太子の御廟の御宇に於て神祇觀音を石に刻し合若と云ふ事

あり

西もやうといふ事向乃田うらうら

月も今宵用酒天れはうらうら

病乃といふとおそろし佛乃妙なり

ちとちとわらわらとれあわわらうらうら

用明天皇の御

春日村



河内縣志三

○敏達天皇御 廣靈宮村乃山立

ちのり 三本末とて

○三平 廣靈佛眼寺土面千石親考

此寺にいさし佛眼と云ふと云ふ御ありは山乃の眼よりはひふ

今又のむらりさく主乃の帝苑山院十九歳上て山出家の

はらまへまして捨化の師と云ふをたむるに列太子は御

のありて紫宮と云ふ京と云ふを食れ山乃の眼より今又の光

とすと初後山乃の捨化の師と云ふを山乃の眼よりと云ふとて

と云ふと帝と云ふも夢と云ふも帝と云ふもめりやと云ふ

かきりたて宣るも小眼よりむらりともて八則は眼と云

三月十石ひとく人と清くあひし味通ふは教えしと云

おうのあひし法名と入覚と云ふも十禪乃の玉体よ麻の門

衣と云ふ一丈戒と云ふもひり佛眼と云ふと云ふ通ては

あれ二十にばり親考(法皇)吹礼ありと云ふも花吹乳

のよりゆりて三慈野那智山如急梅堂初め御ありは法

個谷汲寺よりと云ふ初めあひつ内山下向りの佛眼皆

先よありあま天徳神澄滅度乃ありと云ふ有法師よ

くくらの山乃の作とて云ふもとてやうな失あひつとて

かありん人の親考あつと云ふもとて現世あは後生と

不ろこひひあづらに也

花乃か毛分人通一乃佛眼寺

元由

飛後乃文くもつ羽室うか

西家

佛佛の那のるよはありは乃乃

四家

誰負

花乃か毛分人通一乃佛眼寺

元由

飛後乃文くもつ羽室うか

西家

誰負

佛佛の那のるよはありは乃乃

四家

誰負

敏達天皇御廟



○山田村方法菴院と後引若和別高瀬橋今も人々登る

○推古天皇御廟南山田村に在り村人は東あひま

まといこころんりまらちりい梅がし

弘重

相奇

正音

くたはらるる花れを香ふざりといふやれらるる山田は

持好

いしりまらるる山田野も是八綱

兼光

山田をめぐりしりまらるる香ふまらるる友

言子

金銀花咲くまらるる山田

又云

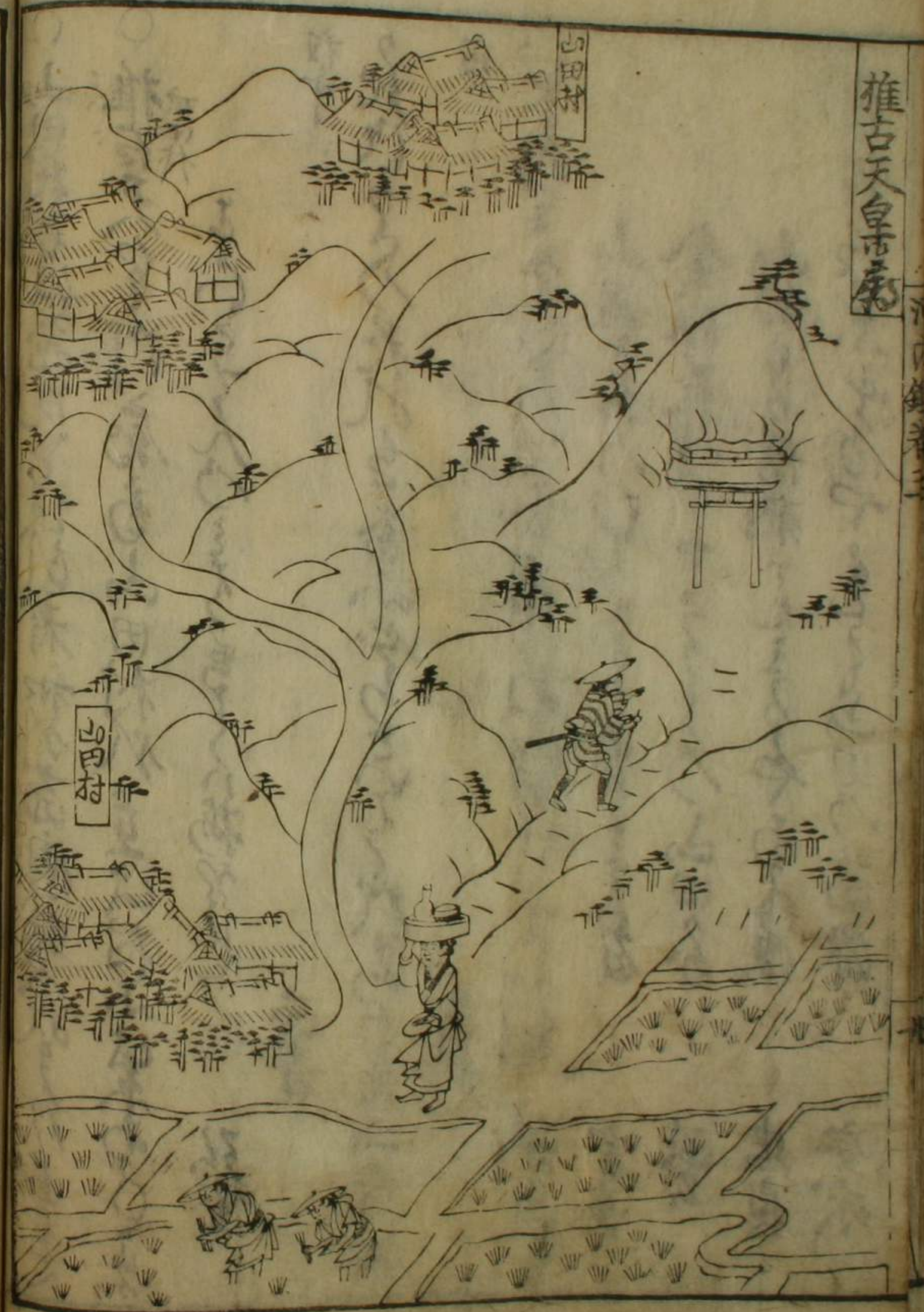
山田より僧林もまらるるやあまの深

忠貞

紅葉の河やまも山田の菴深

安求

推古天皇御



○山田葛蒲、名出沙つわり

どらんどでよき物ふくたやすきひき

河列山田 重勝

○孝徳天皇の御山田山山の麓に慈恵寺を建てて西に大いなる池池を築き、
三十七代

行

心之

親小孝うらやま天は月沈みの山田の氷よりさしてにあらは

まのんやうくうの山田の孝徳天皇 弘重

孝徳のふるまひの山田のころのふ 忠正

○若屋の大師大師の塔塔に十三重の塔塔を建て、
但一本は 三万石

曼荼羅の十三重の塔を建て、 吉勝

常任の寺に火の月を石の塔 久任

○二上り嶽の系川河列山田村の麓にひきよめ令別砂出の

月山とくれせりや金剛砂 以仙

○二上之嶽西之岳 石の上ニ 此の所の石名有 上之岳其物山に不登 此の所に

ふり雷れけしりややびる人ニ又う嶽 性電

山越り延能り二上り雷佛 政云

明玉 ○常れ開 山田峰也と 康資王母

我思ふことばあひしきとこもくもあはれしひのさる

相 一利

常れ開のそ名とありて山田れ里へりきやりのじ

日 次重

常れ也まあはれりともめんふくたへり軒かん徳物

月 自延

清光神と鳴流り勢とつくまを耳にやあ人常り開

日 友和

常れ也まろり金しめくもぬき梅り古木とせよさる

日 清風

常り開れりかやわさけみりさるつたれくも梅り

日 栄貞

とすり竹りあきりさる系い常れ開あさる至大を毛り

日 心重

とく久小流りあきりさるひもれ開きさるわ世を盤昌

常れ也まろり海いほりまれ声 以春

歳旦や鳴りくひもろり席りめ 香屋

鏡梅や常かん園の暮るる具

園必
重徳

守らしむる智をくひとの園の

如貞

何者や常乃園人來く

意辨

常れ開乃戸さんやうこの口

永重

常の園はれもや自身も

林城

常れ開ちなれや花かん見

倍之

常乃園の戸いしくや明乃云

松於

花並とわけをひすの園の

之次

常れ開ち乃名やこころすけ

定久

常かんこま入かくとあれ梅はじ

良徳

常乃園ふましく引 庭の

義元

常の園乃暮るる窓乃梅

正信

常乃こま入くくやむくやむく

伊次

短冊や美くくひとの園の

元由

常れ開しととてはせり人梅

政安

常乃園かん戸むくく梅は

由扇

花のや氣を常乃園の

黒水

常れはささくく梅は

二十

梅もや常乃園をなあり

久任

常れ開乃戸むくくやあつ

正勝

ひ 鶯の園くくやむくく

如元

常かん園くくやむくく



鶯の園ちをたつる鳥おと
鶯のてまふまのりこころの
鶯かゝる園こころあふ似て羽
鶯の口こゝや菌生の小鳥細
鶯かゝる園こゝやゆりせ梅法
鶯れとまふ新ノカゝるや
鶯の園吹こゝよむらゝる
鶯れ園のそゝあゝり郷
鶯かゝる園こゝ飼ひとけ
鶯の通や乞ふひとれ園
鶯かゝるやゝゝ鶯の園の

竹廣
清依
秀立
正安
秩平
光之
定親
利廣
重良
松板
樂也

大真村の鶯有山王権現乃社有

○鶯井

鶯井村河内とれは乃在也伊予とれ義家
は也れ義家奥列の朝敵責任宗任進討の
うんをのこゝ水は湯一則伊勢太神
ハ則河内清乃とて出法軍勢のん
鶯かゝる列をあるとめ乃はかゝる
こゝのこゝをれは乃鶯井と
石尾山ち号ハ花林寺れ義家
ハ鶯かゝる堂程下千と親者
一有

小茶花の... 同 大目れ本... 心音

過法と大日本... 香隆

あ水と波... 義元

大うれお... 芳昌

おせう酒... 好貞

香と... 以也

友と... 忍桂

あも世... 如貞

花が... 自延

のめい... 毛麿

うの... 久任

笑ハ... 定久

月日... 梵達

壺井... 林深

月れ... 唯正

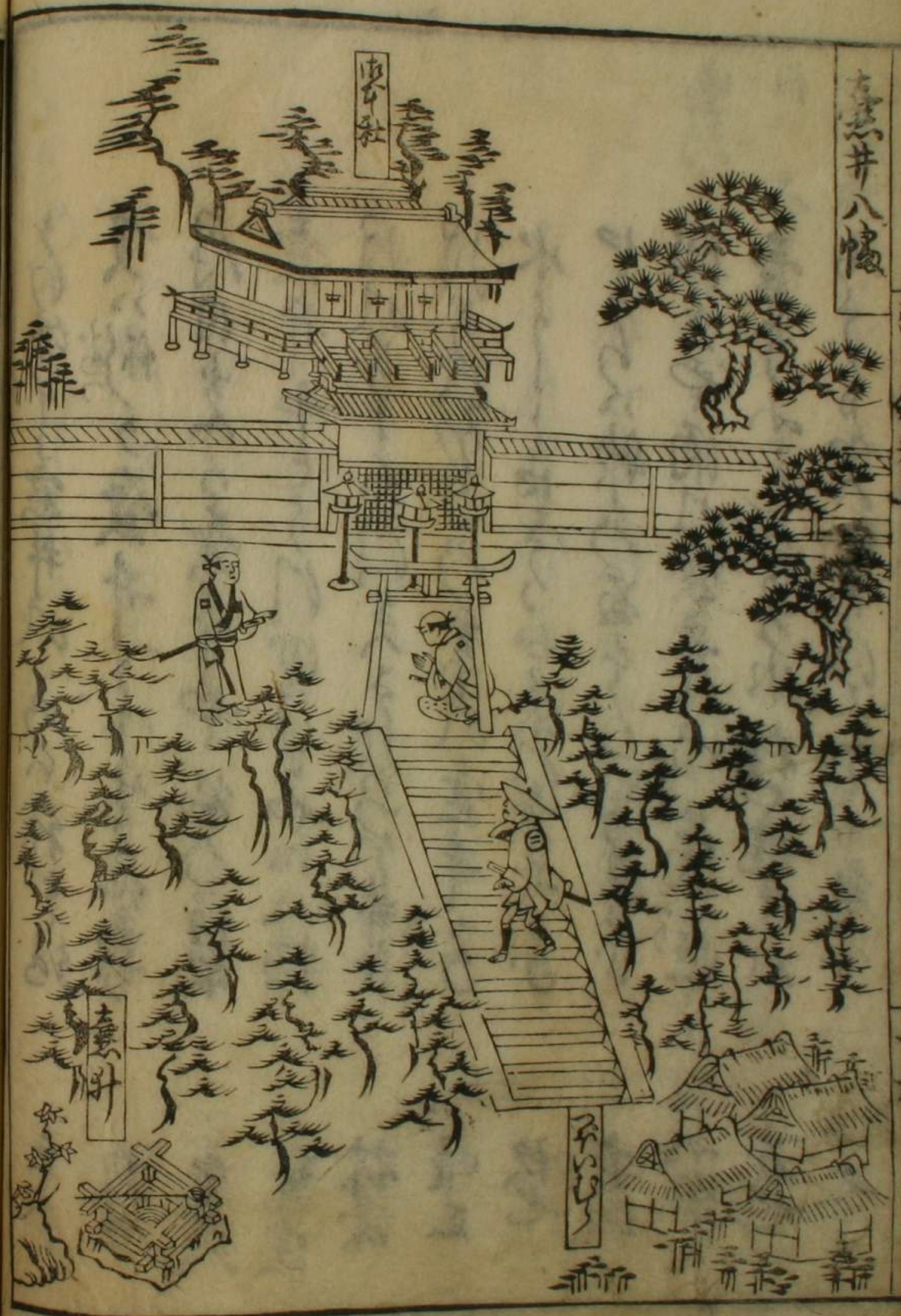
水... 以也

いさ... 定軌

汲... 以也

壺井... 友也

あ... 一之



○飛鳥村紙屋牛以天王宮初小池あり燈乃下せ是にありて
 祇園之元初牛以天王宮初小池あり燈乃下せ是にありて
 右に常林寺とて聖武天皇の御祈禱所にしてありて
 と云中へくすありとの花とあり
 是の別當 重勝

○約名太子富士山より磯長山へ河越の河をいそよよ
 とのりすふふと石下約れ足取あり橋よ約れつたきと
 うきふらにふくむと水乃橋はるりありとや傳ふ推古天皇れは
 新乳寺山号の十六山金剛橋もあき院といふ歌也堂あり
 所像より河長宮大寸太子れ池十二面鏡高きし大宮れは
 作なり也長三尺寸系所如來并々天皇三は推古の法あり守

日 勝よつと一むらうもかきもびらるる弱きそのむねは酒

一有

日 暖花もやうらわしくいれに味深うこそまらたふりこ

自延

日 月とまはれ今一むらうもかきもびらるる弱きそのむねは酒

及次

日 炭もあも弱き名を伝はれ物とて身もかひやま

良徳

もえつる草とやういふ弱き谷

黒水

むやうたむいふむやま乃弱き谷

赤月

むらうもあまのむらう弱きふ

乃意

ほろろまご名い何か花弱き

周忠

花ふりやいふむらうもあまのむらう

西謙子

弱きふり王子あまのむらう

毎雄書

らう花もおいふけいふむらう

信昌

さえはけりや鶴かきむらう

岳朝

弱き名よりけいふむらう

好長

弱き名よりけいふむらう

野鹿

秀方ありし一軒やまのりけり弱き花
 音りしやうたのたそぬぬる若
 曹法りり名やといらん弱き小
 弱き花ふらふらもやせん月出
 如き出く刃何や月もれ弱き花
 咲乱子尾花ありもくぬくふ
 志く何ややそわりもやそ弱き花
 於や鬼乃月つらもろ弱き花
 為の村白山現り社在た八幡子守
 右六弁老天八王子以上又社金塚と云山有
 月ハ花名を為の村と云ふ
 時春
 善心
 年之
 政長
 定軌
 一之
 秩桐
 時春
 童栄

大坂軍の河内山を子為の村
 〇玉子の勝妻と云大木有いふすしとく後後不系
 年有平六歳して討死し又藤田集人正菊相ハ
 名系とくく高実と云々は是といふて討死長次
 七右衛門是又高湯組歌てありしは是も同様に討死
 不系軍共并高実と云大坂討死しつりし
 〇玉子の山安福寺ハ初基菩薩ノ開基河内憶和尙ハ再
 興ノ比也又宗元ノ慈覚大師六字ノ名号ノ内小
 三世十方一切佛とすわりのあは縁ノ惠心信託ノ
 縁起と出給ふ日本や其れ名号あり又三心お佛の
 佛舍利有教如來らや門此舍利と傳起ありし

又初瀬れ観るると一峰の観るわたりと介又寶殿
毎季二月十日開帳を不敷念仏道場也と玉丸
井と云名流ありと銘も半以天王山と云れ塚穴才余有
一ツれ穴ハてら後乃日奥小田十八年（その中）尾と云有
相奇

玉子山勝雲

恵海

軍にやこそうらねれ々ありとのうらやうの堂のゆん

日

葦葉

鉄炮れ玉子山れわきかせ若軍小孫去かふら

とえ玉や蕨の露の玉子山 可勝

雉もやほとあわれおふひれ玉子山 行廣

花よ風見のやふとれ玉子山 勝信

徳島にや都勝雲の郭一云 河琳

堂よりとれやあ精の玉子山 黒水

身よりりや玉子山や飛雲 忠之

猶よ玉と露やかふれ玉子山 芳昌

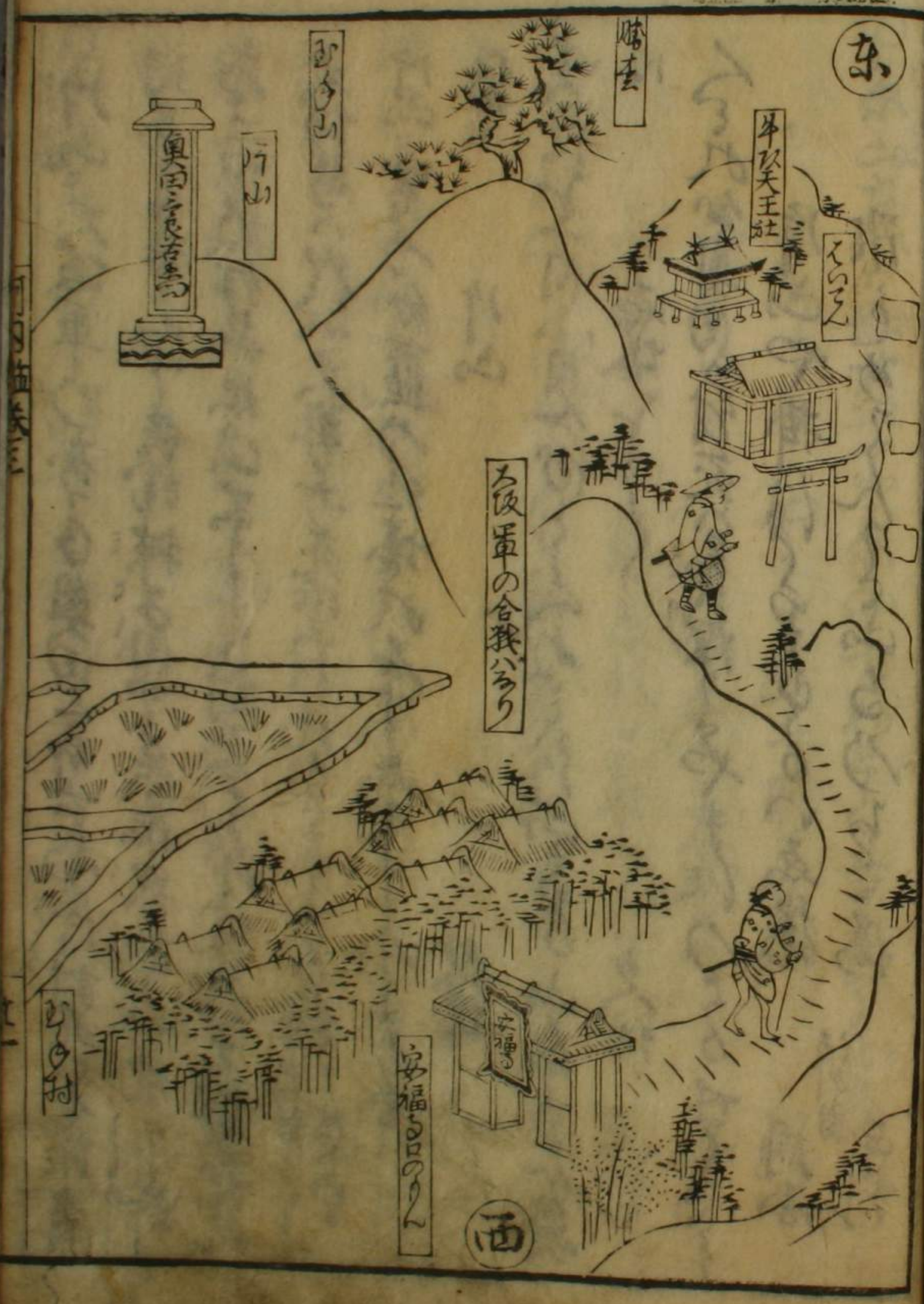
月うつる露や秋光れ玉子山 久任

照月や面白不肖の玉子山 豊昌

丸めやとと風やあも玉子山 徳清

まれ花乃とあうらまの玉子山 政云

雷佛祥むや珠粒の玉子山 政云



○回廊村長日大の律法有又若屋橋若木律法有
わがらさぐりあれぬか人の衆余 久永
杭大一人きいし金乃堂りか 周

○分村親善寺正親善弘法所作ふ弘法寺（中略）近（中略）近（中略）
中儀積玉里や大あくふ 河琳
花軍よりやあらしぬことば 重播
河内しめんおつあれきやことば 成明

○志波河に中い志波とく志波とくたつ大石流れて是
あつたよりあつた月とも志波川といひ傳へたふし不軍八つ
名をのふかおほいふあつたふし付ゆき思ひあり（中略）志波川に
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川

志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川

志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川

志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川

志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川
志波川といふ志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川志波川

大正天皇御紀 皇太后御紀 皇太子御紀 皇弟御紀 皇妹御紀 皇孫御紀 皇曾孫御紀 皇曾孫女御紀 皇曾孫孫御紀 皇曾孫孫女御紀 皇曾孫孫孫御紀 皇曾孫孫孫女御紀

日 則武

山人の物々食となすやうなついでにあらはるる

日 秀徳

くうまゝ思案とぬりし心まよふまよふに接れぬか

日 良弘

かほく園のそとに若小居り小態新代にひてくやわん

日 友和

万々初遊とて飛流のうらぬ今は四代にあらはるる

日 芳昌

あ水とくゆん草と草の飛流川

声は流流子りの思やうとて初

日 周忠

山水のうらとて後にもとて屏内若

うらたりの代や草木飛流川

日 一楽

蓮花若くくふ當やのりの勢

一月のんや花の浮木の飛流川

日 良長

くう園の居ふもゆりや草柳

花うらとて流子りの思やうとて

日 永留

くみうらとてうらとて口のすもふ

日 政公

枕の酒をきてうらとて口のすもふ

日 吉勝

笑やうの佛若くもとて草まふ

日 重房

いくまふしかつらまふ思やうとて

日 扇斗

堂火の枕ぬかすもとて佛若

電^{くわ}若^るよ花^{はな}一^い曇^とや星^{ほし}れけ
 水^{みづ}鶴^{つる}もやてう^うう^うとあ^ある
 精^{せい}つ^つう^うう^うも^も消^{しょう}く^くう^う閑^{かん}
 閑^{かん}の^の莫^{もく}し^しう^うひ^ひあ^ある^るや^や昔^{こころ}昔^{こころ}
 川^{かわ}波^{なみ}の^の溜^{たまり}や^や年^{とし}あ^あり^りあ^ある^る若^若
 万^{まん}年^{ねん}と^と泉^{いづみ}も^もほ^ほろ^ろと^と懸^かぬ^ぬ川^川
 あ^あら^らの^のと^とす^すし^しあ^あら^らの^の若^若流^流水^水
 言^{こと}若^若と^と玉^{たま}れ^れく^くあ^あり^りす^すと^と流^流
 扇^{あふぎ}若^若と^とい^いひ^ひつ^つか^から^らの^の若^若流^流水^水
 佛^{ぶつ}若^若や^や昔^{こころ}昔^{こころ}あ^あり^りけ^けと^とあ^あら^ら
 川^{かわ}波^{なみ}や^や月^{つき}と^とあ^あら^らの^の扇^{あふぎ}若^若

則武
 重勝
 政云
 庄角
 黒水
 良去
 天飯
 政長
 正元
 好長
 徳清
 唯正

垂^たれ^れ玉^{たま}や^や利^りく^く佛^{ぶつ}若^若
 玉^{たま}露^るの^の玉^{たま}い^いら^らの^の佛^{ぶつ}若^若
 わ^わど^ど萩^{はぎ}や^や綿^{わた}志^しく^くむ^む懸^かぬ^ぬ川^川
 い^いら^らの^の出^でる^るあ^あら^らの^の月^{つき}と^とあ^あら^ら
 若^若若^若れ^れ流^流る^るふ^ふわ^わの^の水^{みづ}れ^れ月^月
 と^とす^すり^りな^なる^るを^を扇^{あふぎ}つ^つい^いの^の若^若と^とあ^あら^ら
 紅^{こう}糸^{いと}射^やし^しう^うう^うに^に照^てせ^せう^う閑^{かん}
 山^{やま}と^とか^かく^くそ^そや^や冷^{ひや}く^くや^やの^の若^若と^とあ^あら^ら
 酒^{さけ}と^とい^いら^らの^の若^若と^とあ^あら^らの^の若^若と^とあ^あら^ら
 三^{さん}の^の若^若よ^よ一^いと^とい^いう^う何^{なに}や^やむ^むつ^つ花^{はな}
 汲^ひみ^みれ^れ水^{みづ}の^の懸^かぬ^ぬや^やた^たく^くさ^さう^う

嘉任
 可勝
 以仙
 阿琳
 永留
 政云
 常心
 糖々
 富吉
 同
 定久

飛瀨川甲やしつとあり

辯愚

踊くわりの飛宵や恩の厚水

致也

○青島中山光寺廿八雨の行ふ八大金剛童子は社あり

○高井田伽藍は旧地有今正親善小寺を白坂大の社に社

河内とまはひ社に新れ大の社に社あり

水ありとまはひ湯ありは後吉冠とる里人のくりき

○安堂村古ハ伽藍不之中今ハ小堂小大目如來を立

○太車寺太子の所建立七堂伽藍は旧地也寛永の比

里人本堂の地ありつとあり如之攝観音塔出小堂を合

書初や治り天下太車寺

嘉徳

汲そけりうすしとや天下太瓶子

定軌

○尾畑松光徳寺人王六五代法融法皇の所

建立東慶山照曜家寺とつと伽藍の旧地所の院

主と法皇大法師とつと安貞二子のあり并

ちの碩学後鳥僧都和列信貴日沙の長友と改

く後地河内一巻守也一め堂塔遠より法ひ別物

宣よりして照曜山光徳寺と改め後鳥僧都僧持也

らの後鳥後よ安居院の聖光法京にありて念仏

宗と守終よハ親鸞聖人の所弟子とありありて松

谷仏会所とありて是當ちハ元祖とつと本堂と扇林

堂は又護念堂は号ス本堂ハ阿弥陀立像は去二天の對を

念法皇の所ありて法皇貴所の四化女人娘身平産

の身佛とて女人とてび此本寺に就とく人衆養とのれて
 年壽の奇物ありし中來る堂の傍より水被井ぞ
 名井あり後乃ては法主佛会堂の用たるは堂の裏に法
 堂のその前首の所主法堂ありし是も此新今も西の方の堂の
 佛会堂の四角の代に石塔の廟ありあり極東永徳堂の母儀
 高寺の檀那ありしゆ石塔の良の寺は張の照曜塔院の
 社有る地の中八ふり付物とて多くもこの寺の教のほかに
 又高の寺より東の方の子安の地法堂作らるるも女人年壽の利益
 ありゆとては後より社にふりま有る十三重の石塔あり
 極高の寺より安堂村の方へ出まるとありの石塔を極高の寺より
 りのとをわくと石塔の石塔あり又かなり塔ありしはこ塔あり

狂奇

清次

舞の細くやめ盡れとらりもよそほつたあれはとらりも若

秀綱

ちやうらいとれとらりもやきし縁よりか三又おれ月

則武

ちやうらいとれとらりもやきし縁よりか三又おれ月

乃次

舞の細くやめ盡れとらりもよそほつたあれはとらりも若

政公

吉勝

舞の細くやめ盡れとらりもよそほつたあれはとらりも若

久任

松谷光世寺

返轉人久

影回石

法堂

本堂

石の御

一社三所

毘沙門天

春日大の神

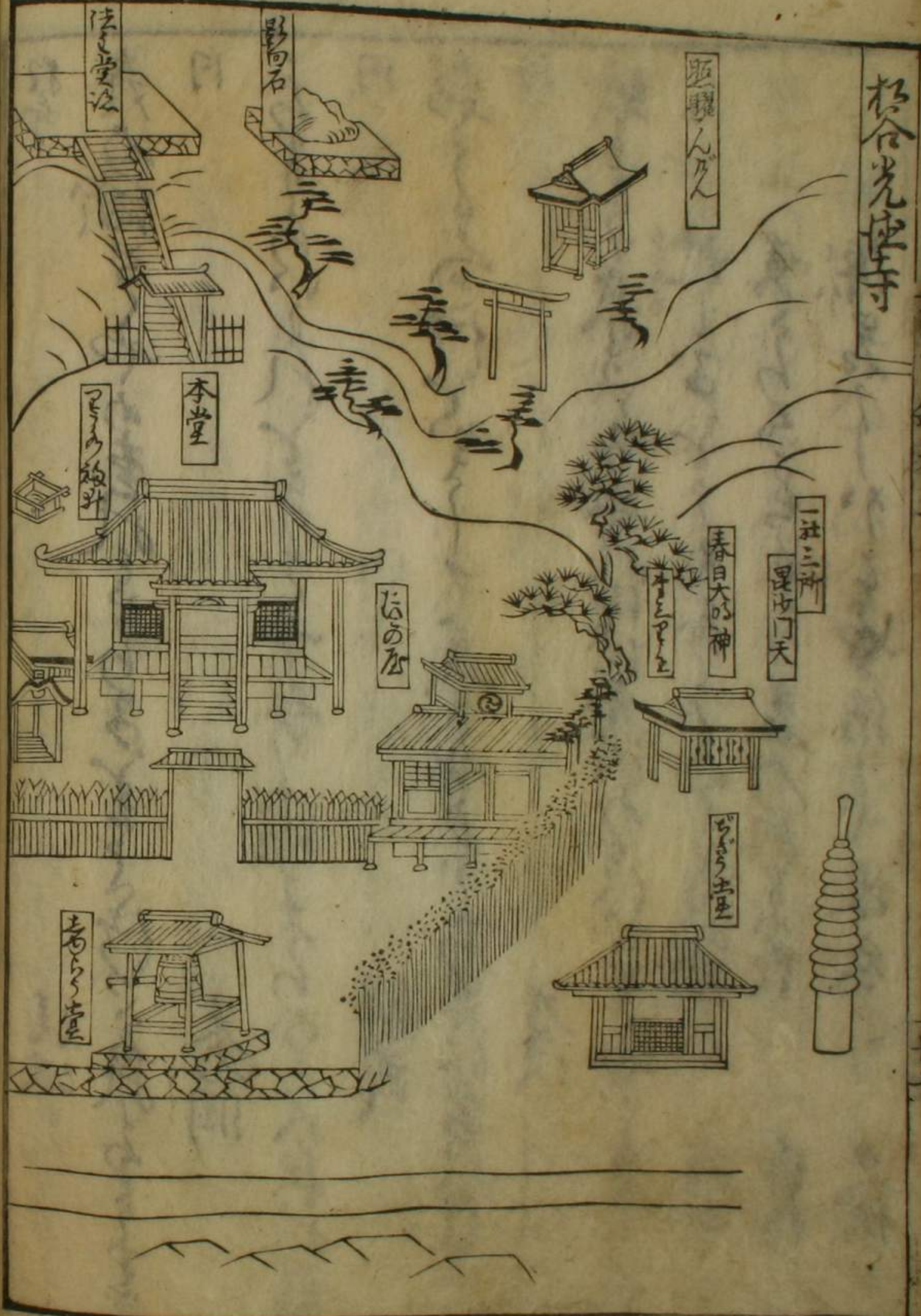
本堂

たの

ちの



土の



仲金堂

松永堂

ちの

晴

ちの

ちの

ちの

ちの

ちの



くくむ揃き子あれた花むら
かそ川うとら若乃若うく
則武 政長

○大徳村春日大社神社在大兩寺うく雲塔れ同江あり
尾家にいざら招れ大木三葉大若乃あひひの生出り

いそり妻あ方いりも見ろ人の右やひくろれ若若らん
久任

あふ乃くやとんと尾のうは月
夕やをい尾れあ乃く紅葉ハ
常有

○三十三寧天皇御廟坂門京陵大徳那平野乃山の内
傘妻乃大木のふくくあ乃乃くくつひ傳くゆり

○平野村上面観音のたま行基作のりん冷木正三連也
相奇 久任

くひの月を板とたいうけく紅葉をやんよあ葉多松
況波りかくゆく妻乃輝の都
政公

見後せハ中平野菊のり
山をさそ平野くくか乃の葉
仲也

○山乃井茶師如真行基作のり王山茶師寺と長久
相奇 久任

山乃井乃蛙のふれやまひと茶師如真やあゆり
同 及次

茶師れ胸のりあわさく出らやまはあ乃乃井の水
浅くは乃乃山乃井乃茶師也
相奇

る丸峯

春日大明神社

大々村



○ 櫻の東より別内なり橋寺の旧辺あり

万葉中七

櫻の橋よりとれし川をこさくはくぬひー我下衣
万葉十六

橋乃ちの古屋よ我々の所ー童女のありは發つてん

ねさ

友和

せり分るふさら花ちれ郭ふがせんといふかをよけの

夏れ新くたらしくか寺の蜂の池 正後

八尾木嶽名院あり中記の河必八尾木金剛菩薩あり

吉野の寺あり

ふらかり為常れ尾と十二数ありといふ八尾と八尾

河内

すまじくはうりりもや

梅名院

勢りとして家にえさうん驚れ八尾の榎子とれ勢

と書垂るる神妙じくも本寺の事りと出かた

相寺

八尾本不動屋敷

乃次

大川とら不動屋敷ありしをうかたよりにやわん里人

同 月

正之

本像と八尾本本少きと海にく不動の堂の建立は

同 八尾本寺の表塚

乃次

我見らう子れ内しりし見初めりる表塚の身世ゆめり

日太子軍れ八尾本本同をわけ

同

秋れ表もあかりくはめ川の流れまはち子れゆき水うれ

